

施策の柱1 持続可能な社会をけん引する人づくりと県民総ぐるみによる運動の展開

本県では、令和3年3月に策定した「第4次山形県環境計画」において、「持続的発展が可能な豊かで美しい山形県」を構築していくには、持続可能な社会や環境を支える「人づくり」が全ての基盤であるとして、全ての施策に係る重要施策と位置付けています。

環境問題を「自分ごと」として捉えるための意識改革・行動変容の促進を図るため、気候変動を防災や健康など自らの命や暮らしにも関わる身近な問題と関連付け、全ての世代の県民一人ひとりが、環境に配慮した行動ができるようライフステージを踏まえた環境教育・環境学習を推進していく必要があります。

特に、2050年カーボンニュートラル社会の実現に向けた取組みは時代の要請であり、全ての県民がその趣旨を理解し、県民総ぐるみによる運動として取り組むとともに、次代をけん引する若者の育成や若者が活躍できる環境づくりが求められています。

1 山形県における環境の状況

本県における環境教育「人づくり」

- 「カーボンニュートラル」とは、大気中に排出される二酸化炭素などの温室効果ガスの量から、森林等が吸収する二酸化炭素（CO₂）などの温室効果ガスの量を差し引いて、全体を実質ゼロにすることです。
- 令和3年度に県民のカーボンニュートラルの認知度を調査したところ、「言葉も意味も知っている」と回答した割合が29.4%、「言葉は知っているが意味は知らなかった」と回答した割合が23.4%、「言葉も意味も知らなかった」と回答した割合が45.6%という結果になりました。

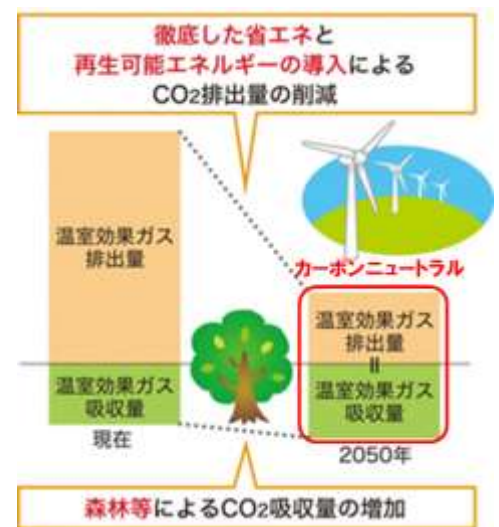
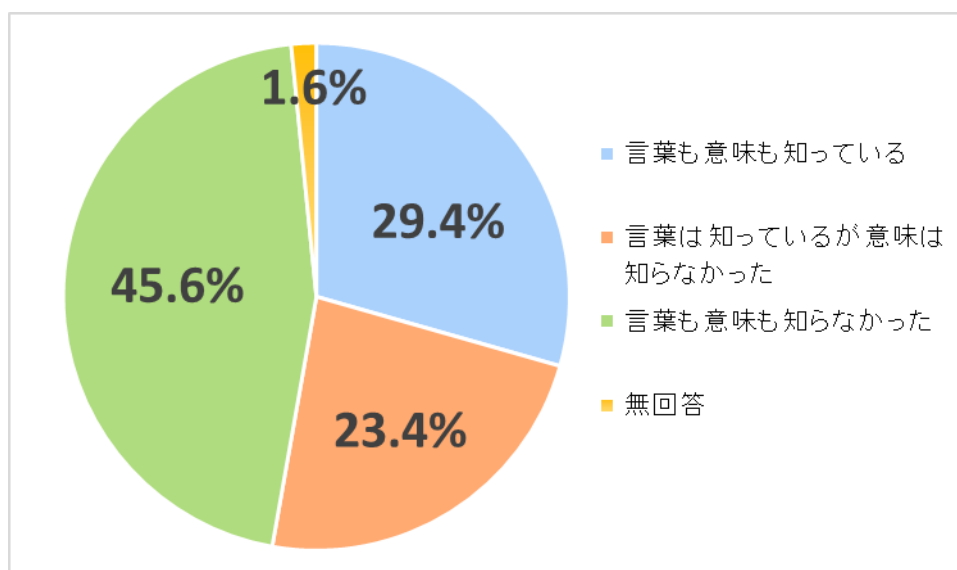
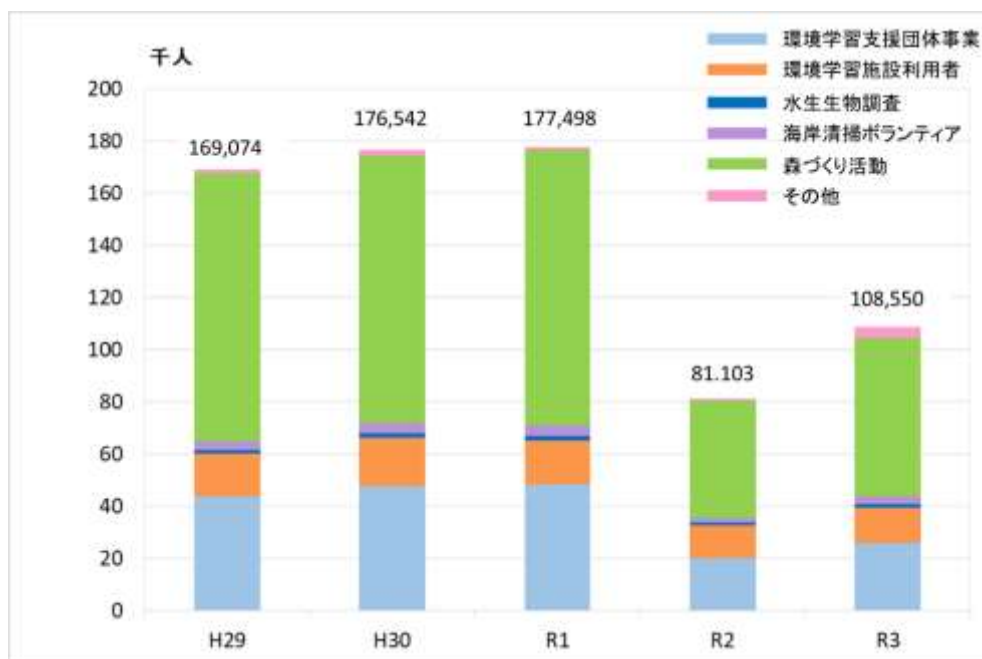


図1-1 「カーボンニュートラル」の言葉と意味の認知度（令和3年度）



- 令和3年度の環境学習・環境保全活動への参加者数は、10万8千人で、令和2年度と比較して2万7千人増加しました。新型コロナウイルス感染拡大の影響が続く中で、前年度より参加者数が増加した主な要因としては、環境に関する県内でのイベントや環境教室、施設見学受入れ等が回復されたことが挙げられます。

図1-2 本県における環境学習・環境保全活動への参加者数の推移



2 施策の柱1に係る取組み

(1) 環境問題を「自分ごと」と捉えるための意識改革・行動変容の促進、県民総ぐるみによる運動の展開

ア 県内各施設におけるカーボンニュートラル広報啓発巡回展示の実施

- 「ゼロカーボンやまがた2050」の実現に向けて、県民の皆様に対して「カーボンニュートラル」という言葉や趣旨について理解を促し、省エネルギーへの取組みや再生可能エネルギーの導入といった具体的な取組みへの理解・協力を呼び掛けることを目的として、県内4市（米沢市、鶴岡市、新庄市、東根市）の庁舎・図書館や県立図書館といったの公共施設6会場に特設の展示ブースを設置し、啓発ポスターやリーフレット、チラシ入りポケットティッシュ等を配置し、普及啓発を実施しました。

イ 公用車への電気自動車導入によるカーボンニュートラル普及啓発

- 県が自ら排出する温室効果ガスを削減するため、公用車として電気自動車を県庁及び各総合支庁に1台ずつ導入するとともに、東北芸術工科大学の学生に制作を依頼したカーボンニュートラルをイメージしたデザインを車両にラッピングすることにより、県民へのカーボンニュートラル普及啓発に活用しました。



ラッピングを施した電気自動車

ウ カーボンニュートラルについて学べるオンライン講座の動画の作成及び配信

- 県民にカーボンニュートラルについて気軽に学んでいただけるように全7回の「カー

ボンニュートラルオンライン講座」の動画を作成し、県公式YouTubeチャンネルにおいて配信しました。

(2) 担い手の発掘・育成と活躍できる環境づくり

ア やまがたカーボンニュートラル大使の委嘱

- 環境に関心を持つ小・中・高校生が、2050年に社会の中心となることを見据え、カーボンニュートラルについて考え、話し合い、交流するとともに、取り組み事例や取り組みの大切さなどを情報発信することにより、カーボンニュートラルの実現に向けた機運の醸成と県民一人ひとりの取り組みに波及させることを目的としています。
- 令和3年度は、環境に関心を持ち、取り組みを実践している小・中・高校生の7グループに「やまがたカーボンニュートラル大使」を委嘱しました。

【やまがたカーボンニュートラル大使一覧】

学校名・グループ名	環境学習の概要
東根市立東郷小学校児童会（東根市）	学校の環境方針に基づく省エネ等の環境活動
遊佐町立藤崎小学校第4学年（遊佐町）	松林の学習と枝打ち・植林の保全活動
新庄市立新庄中学校生徒会「愛修会」（新庄市）	新庄祭り後の市街地清掃活動
県立山形東高等学校探究部 温泉と雪で熱発電チーム（山形市）	温度差発電の研究
県立山形東高等学校探究部 微生物発電チーム（山形市）	微生物発電の研究
県立山形工業高等学校 山工元気プロジェクトチーム（山形市）	廃食油利用のマンゴー栽培
学校法人九里学園高等学校 1, 2学年プログレスコース（米沢市）	気候変動等の探究学習、政策提言

イ 高校・大学等を対象とした若者向け環境SDGsワークショップの開催

- 令和2年度より、カーボンニュートラルの実現に貢献できる人材の育成を図るため、山形県民CO2削減価値創出事業「やまがた太陽と森林（もり）の会」の取り組みにより得られた収益を活用し、若者を対象とした環境SDGsワークショップの開催を支援しています。令和3年度は、SDGsや地球温暖化、気候変動適応をテーマとして、県内の高等学校や大学など15校において合計19回のワークショップを開催しました。



【若者向け環境SDGsワークショップの開催先一覧】

学校名	
酒田南高等学校	荒砥高等学校
山形大学農学部	長井高等学校
置賜農業高等学校	米沢中央高等学校
荘内看護専門学校	寒河江高等学校
米沢興譲館高等学校	米沢東高等学校
東海大学山形高等学校	鶴岡中央高等学校
山形工業高等学校	長井工業高等学校
上山明新館高等学校	

ウ 環境学習支援団体の認定

- 環境の保全に関する情報の提供や体験機会の提供などを通して、県民の皆さんの環境学習を支援している民間団体を認定し、広く紹介することにより環境学習の機会の拡大

を図り、環境保全の意欲増進を図ることを目的として、平成16年度から認定を行っています。

- 令和3年度末現在48団体を認定し、県ホームページ等において各認定団体の活動について紹介しています。

令和3年度新規認定団体	功績概要
NPO法人山形県リサイクルポート情報センター（酒田市）	酒田港周辺の環境関連企業ガイド
東北クリーン開発株式会社（山形市）	廃棄物焼却の排熱を利用した汚泥由来燃料製造施設
株式会社クリーンパワー山形（山形市）	廃棄物焼却の排熱を利用した発電施設
株式会社山本組（鶴岡市）	採石現場での地層観察・化石採掘体験

エ 「やまがた木育」の取り組み

- 平成30年3月に「やまがた木育推進方針」を策定し、「森や自然の大切さを学び、森や木の文化を見つめ直し、森や自然の恵みに感謝し、自然との共生の文化を理解・共感できる豊かな心を育み、森との絆を深め、暮らしの中に木を活かしていくこと」を「やまがた木育」と決めました。



やまがた木育人材養成講座【スキルアップ】

- 令和2年度は、「木育クラフト」、小学校高学年向け副教材「やまがたの森林」とポケット版教材「森のたんけん手帳」を配布しました。また、「やまがた木育」の指導者を養成するため、やまがた木育人材養成講座（スタートアップ、スキルアップ）を開催しました。



県立自然博物館で自然に親しむ園児たち

- また、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により屋外活動が減少した幼稚園・保育園児及び小中学生を対象に、各学校等から県立自然博物館への日帰りバスツアーを実施しました。その結果、30団体、991名の利用があり、自然体験学習の機会の創出に加え、開園30周年を迎える同園の利用拡大が図られました。

オ 環境保全団体の顕彰

- 県では、地球環境又は地域環境の保全と創造に功績のあった方を顕彰する「環境やまがた大賞」事業を実施しています。
- 令和3年度は、次の4団体が受賞しました。

受賞区分及び受賞団体	功績概要
【大賞】村山市・村山市教育委員会	市内の全中学校生徒による植林・育林活動を39年間継続して実施
【大賞】山形県立酒田光陵高等学校	太陽光発電等を利用した照明の製作と管理やクロマツ林の清掃活動等
【奨励賞】熊野長峰湿原保護管理会	地域住民による貴重な動植物が生息する湿原群の保護活動
【奨励賞】山形県立山形工業高等学校	IoT・バイオマスエネルギーを利用した「山形産マンゴー」の栽培

(3) 学習機会の充実

ア 環境科学研究センターの環境教育拠点機能の充実

- 本県における環境教育の拠点施設である環境科学研究センターでは、県民による自主的に活発な環境保全活動が展開されるよう、環境教室の開催や教材の貸し出しを行っているほか、環境アドバイザー等の派遣、水生生物調査への参加呼びかけなどを通じ、環境意識の醸成を図っています。また、県内で行われる環境関連イベントなど環境に関する情報について、ホームページやSNSで発信しています。

(ア) 環境相談の受付・教材の貸出等

- 環境教育に関する相談窓口の設置、環境情報・自然環境棟における環境関連の図書やDVD等の展示・貸出、体験学習の支援など

(イ) 環境教室の開催

- 学校、団体、放課後子ども教室・放課後児童クラブなどを対象とした所内教室・出前講座の実施

【令和3年度実績】 129回 (3,655名参加)

《講座例》リサイクル工作、水生生物調査、水質調査



環境教室の様子

(ウ) 環境アドバイザー等の派遣

- 環境やエネルギーに関する専門的な知見を有する環境アドバイザーや地球温暖化防止活動推進員の派遣

【令和3年度実績】 40回 (1,157名参加)

《講座例》地球温暖化、食品ロス、SDGs、リサイクル工作、海ごみ、脱炭素社会の実現

(エ) 親子で楽しむ環境科学体験デー

- 環境月間（6月）推進事業の一環として、環境への関心を深めるとともに、環境科学研究センターの業務や施設を県民に知っていただくことを目的に平成15年度から開催

【令和3年度実績】 6月27日開催（入場者延べ99名）

《実施内容》「バスボムをつくろう!」「里山探検に出かけよう」等の実験、体験コース

イ 情報発信の強化

- より多くの県民の方々に環境のことを「自分ごと」として捉えてもらう普及啓発のため、令和3年2月にスマートフォン対応のサイト「環境情報やまがた」を作成しました。

「環境情報やまがた」では、山形県にゆかりのあるYouTuberとコラボした環境啓発動画の配信や環境保全に関する高校生の取組み、山形県の環境に関するデータなどを提供しています。

(4) パートナーシップの充実・強化

- 環境学習支援団体のほか、環境学習・環境教育に関わる方々が学び交流する場として、オンラインで「環境地域づくり担い手連携推進セミナー・山形県環境学習支援団体交流会」を開催しました。

【令和3年度実績】

・計16名参加

・地域で環境教育を実践している皆さんに、コロナ禍における悩みや実践例を持ち寄っていただき、発表、意見交換をしていただく交流会を開催。

テーマ：「ウィズコロナの活動どうしてる？」